



でこぼこ広場で 楽しくお絵かき

たいしょう
対象
ねんせい
1年生～6年生

普段の図工の時間では「この紙にかきましょう。」と先生が用意した紙を使うことが多いですね。でも今回は、アルミホイルを使って自分で「絵をかくための場所」作りをして、それからそこにクレヨンで絵をかきます。料理などで使われるアルミホイルは手でちぎったり、にぎったり、くしゃくしゃにしたりして、簡単に形を変えることができます。いろいろな大きさ・さわりごちのアルミホイルを工夫しながらはって面白くでこぼこの絵を作りましょう。6年生は5年生の時に「でこぼこ広場に絵の具が走る」で、身のまわりにあるすきな材料を段ボールにはって、液体粘土と絵の具で色をつけて作りましたね。

ざいりょう どうぐ
【材料・道具】紙（画用紙でもいらぬ紙でもどちらでもよいです。アルミホイルをはるので見えなくなります。）、ボンド、クレヨン、アルミホイル



①紙にアルミホイルをはります。ボンドをつける時、紙ではなく、アルミホイルの方につけるとはりやすいです。



②はじの方もボンドをつけましょう。絵をかく時にアルミホイルがやぶれにくくなります。



③くしゃくしゃにしたり、丸めたりして、アルミホイルのはり方を工夫しましょう。細くねじると線のようにになりました。高学年の人は、複雑な模様を作ることができるかもしれませんね。先生は自分の名前にある「山」をイメージして作っています。



⑤でこぼこができあがったら、クレヨンで色をつけていきます。でこぼこの種類によって、かきごこちはどんな風になるでしょうか。また、白い画用紙にかく時と、アルミホイルにかく時のちがいを考えてみましょう。



⑥絵が完成したら、タイトルをつけましょう。先生の作品のタイトルは「星と雷がおちてくる山」です。工夫したところは、山の模様のかき方を少しずつ変えたところで、だんだんと形や色が変わる、自然の変化を表現しました。左上にはった丸いアルミホイルが、山にふってくる流れ星に見えてきて、雷も同時に落としてみました。



アルミホイルを操作してできる形や感触の変化を味わいながら、工夫して支持体を作り、できた形から発想したことや自分のイメージに合わせてクレヨンで描いて表現する力が身に付きます。

